

平ボデー解体マニュアル

- ◇ 本マニュアルは、不二自動車工業㈱が製造する平ボデーの解体に関して、「適正で効率的な作業」を案内し、使用済み架装物処理の各段階で適性且つ安全に処理するための手順をまとめたものです。

A 作業上の注意

- a) 安全な作業を行うに当たって、定められた作業服、作業帽、安全靴を着用し、作業内容に応じて保護メガネ、耳栓、防塵マスク等の保護具を着用して下さい。
- b) 高所作業については、安全帯、足場の確保等転落防止処置を講じて行って下さい。
- c) 燃料系の除去・回収に当たっては、消防法を遵守し、引火・爆発が発生しない様な環境及び方法で行って下さい。
- d) 油脂・液材系の除去・回収に当たっては、地下浸透や施設外流出が発生しない様な環境及び方法で行って下さい。
- e) タンク等の解体時は有害物質等の除去・洗浄を完全に行い、安全を確保した上で作業を行って下さい。
- f) 使用済み架装物等に含まれる作動油等の有害物質及び埋立が禁止されている蛍光ランプ等の部品、材料並びにそれらを含む部品を破砕処理する前工程で選別し適正に保管、処分を行って下さい。
- g) FRP・木材の解体後の処理については、シュレッダー業者又は専門回収会社に委託し、適正に処理を行って下さい。

B 平ボデー車の解体分別は、下記要領で実施してください。

1. 機装品の取り外し

- 1) サイドガード、リヤフェンダー、泥除けのボルトナットを外し、荷台より分離します。
- 2) 灯火類のボルトナットを外し、荷台より分離します。この際荷台に固定されているハーネスも取り外します。
- 3) ハーネスはビス又はリベットで固定されています。リベットはφ5～6mmのドリルにてリベットの芯部に穴をあけることで容易に外れます。

2. 荷台のシャーシからの分離

- 1) 荷台はシャシフレームに縦根太を介しUボルト（片側3～6箇所）で固定されており、この締め付けナット（M8～M16）を外します。
- 2) シャシフレームと縦根太をUボルトの他に専用ブラケットで固定している場合があり、これも取り付けボルトを外します。

3. 荷台の解体

大別

- 1) 荷台を鳥居、側あおり、後あおり、床に大別します。
- 2) 鳥居はボルト、リベット、又は溶接にて取り付けられていますのでボルト類を取り外します。リベット、又は溶接で取り付けられている場合、適所で切断します。
この時鳥居が倒れないようにクレーン等で吊っておいてください。
- 3) 側あおり、後あおりは床枠に丁番ピン、ワッシャ、割ピン、Eリング等で連結されていますので、取り外して床枠と分離します。

鳥居の分解

- 4) 鳥居の荷台側は全面又は半分ほど鉄板材、木材、樹脂やアルミで覆われていますが、ビス又はリベットで固定されている場合、ビスは緩め、リベットは $\phi 5 \sim 6 \text{ mm}$ のドリルにてリベットの芯部に穴をあけることで容易に外れますので、鉄板材を鳥居から剥離します。
- 5) 鳥居枠材に溶接されている鉄板材は切断し鳥居枠材と分離するか、鳥居枠材と一緒に適当な大きさに切断します。

あおりの分解

- 6) 側あおり、後あおり各々が異なる材質の組合せの場合がありますので、“あおり”として解説します。

木製あおり

- 7) 外枠、丁番、外板が金属、内板が木材になります。丁番縦部のボルト、ナットを外し外板、内板を分離します。
- 8) 金属製の枠は適当な大きさに切断します。溶断機を使用し切断する場合、必ず内板(木材)を取り外した後切断して下さい。

アルミ製あおりの場合

- 9) リベット及びボルト、ナットで組立されています。リベットは $\phi 5 \sim 6 \text{ mm}$ のドリルにてリベットの芯部に穴をあけることで容易に外れます。
- 10) 前後の掛け金はボルト、ナットを内外両面、又は外面から外し分離します。
- 11) コーナーポスト(縦材)のリベットを外し分離します。
- 12) あおり中間に部品が付いている場合、取り外します。
- 13) あおり本体の上下を貫通している通しボルトを外します。あおり上面にナットが露出

している場合取り外し分解します。あおり内部に通しボルトが隠れている場合、あおり内側の裏板のリベットを外し内部に隠れているナットを外し、通しボルトを下へ引き抜きます。

- 14) 嵌合組立の場合分解できないので、丸ノコ等で切断します。
- 15) 上下数本に分離したあおりの合わせ目に、ゴム類が挿入されている場合引き抜きます。
- 16) 前後端に木材、あるいは樹脂部品が挿入されている場合引き抜きます。

床の部分

- 17) 床板は横根太にビス又は釘で固定されています。ビスが全て弛めばビスを外し床板を取り外します。ビスが弛まない場合は丸ノコ等を使用し各横根太間で床板を切断し、バールでこじり取るか、ハンマ等でたたき割ります。
- 18) 床板下に金属、又は樹脂等の下張りがある場合同時に取り外します。
- 19) 床板端末の木口保護材がビス、溶接などで床枠に固定されている場合、事前に取り外します。
- 20) 床枠の下に床板が入り込んでいる場合、24) の床枠の分解時に床板を取り除きます。
- 21) 床板上が金属張りの場合、床枠へのビス止め部、又は溶接部を切断します。
- 22) 床上材は床板と接着剤、又は両面テープで固定されているので、接着剤等を破壊しながら端末よりバール等で剥がしていきます。
- 23) ビス等で固定されている所は、頭を一文字キリで座ぐります。
- 24) 骨組みになった床から左右及び後の床枠を取り外します。
- 25) 床枠と横根太がボルト組立の場合、ボルト、ナットを取り外し床枠を分離します。
- 26) 床枠と横根太が溶接組立の場合、適当な箇所切断し床枠を分離します。
- 27) 床枠にあおり丁番がボルト止めの場合、ボルト、ナットを取り外し丁番を分離します。
- 28) 横根太、縦根太がボルト組立の場合、ボルト、ナットを取り外し横根太と縦根太を分離します。この時連結材も各々より分離します。
- 29) 横根太、縦根太が溶接組立の場合、適当な箇所切断し分解します。
- 30) 縦根太下面にスペーサがボルト類で取り付けである場合、分離します。
 - ・普通荷台の多くを占め使われている処理困難物としての木材量の目安は架装仕様により違いがありますが、おおよそ大型500kg、中型350kg、小型200kg程度になります。
 - ・最後にハーネス、鉄、アルミ、ステンレス、樹脂(FRP他)、ゴム類、木材等を材質別に分離し適性処理をお願い致します。

◇ シャシについて

自動車リサイクル法に従って処理して下さい。

MEMO

◆◆本マニュアルに対してのお問い合わせ先◆◆

TEL 0587-95-1611

FAX 0587-95-6137

不二自動車工業株式会社

技術部 岡本 前田